

## 平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本発の住民参加型の医工連携ものづくりモデルの構築
事業主体 (連絡先)	信州メディカル産業振興会 松本市旭3-1-1 信州大学学術研究・産学官連携推進機構 URA 室内 電話：0263-37-3530 FAX：0263-37-3425
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,691,821円 (うち支援金：1,353,000円)

### 事業内容

#### 1. パンフレット・Webサイト等による普及啓発

イラストを用いるなど、医工連携ものづくりに住民が参加することがいかに大切かをわかりやすく伝えた。

在宅・介護の現場で使いやすくデザインも良い製品を開発する上で重要な「住民からの意見」を取り入れる過程をご理解いただいた。

#### 2. セミナー・ワークショップ・イベント等を通じた普及啓発とものづくり試行

住民の皆様にご理解いただくために、

- ①在宅等現場からの意見表出、②試行品への意見反映、③試行品の検証、④試行品の研磨(改良)、ということをご体験していただいた。



#### 【目標・ねらい】

- ①本事業の普及啓発
- ②若年層を含む活動の拡大
- ③住民参加によるプロトタイプ試行

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

在宅・介護の現場では、医療機器や介護用品を使う人、支える家族の双方が、製品に不満を抱きながら我慢して使っている、介護していることが多いといわれている。

今回ご参加いただいた方々からは、「普段なかなか声にすることができない不満や問題点にあらためて気づいた。もっと社会を良くしていきたい」、「また参加したい。このような取組みが広がって欲しい」というような積極的な意見が聞かれた(TVでも放映された)。

昨年、住民、行政、企業等から多くの賛同を得たが、今年はさらにその輪を広げることができた。

#### ※自己評価【 A 】

【理由】実践により医工連携における住民の重要性に自ら気づかれた方々が多く、関心が高まった。この変化が、事業主、行政、企業の活動方針にヒントを与えてくれた。

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

これまでのセミナーやワークショップに加え、大規模シンポジウムを開催するなどにより、大勢の住民を広く巻き込んだ事業規模の拡大を図る。

また、医工連携ものづくりのアイデアを広く住民から公募し、優秀なアイデアについて開発チームを編成し、本格的に医療機器・介護製品等の開発を実施する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)